

〈特別コラム〉

公共空間メディア紹介

「闇金ウシジマくん」と「貧困問題」

武智昭憲

今回、我々はテーマの一つとして「貧困」を取り上げたが、そもそも、「貧困」とは一体何であろうか。ユニセフによると、貧困の定義は一つではなく、国や機関によって様々である。例えば、世界銀行では、一日一・二五ドル未満で暮らす人の比率と定めている。また、国連開発計画（UNDP）では、教育・仕事・食糧・保健医療・飲料水・住居・エネルギーなど最も基本的な物・サービスを手に入れられない状態と定義し、それを定量的に測る指標として人間開発指数を導入している。さらに、生存するため必要最低限の生活水準が満たされていない状態を表す「絶対的貧困」、これに対して、ある地域社会の構成員がその社会の大多数よりも貧しい状態を表す「相対的貧困」という考え方もある。

このように、貧困に対する考えは一通りでは

ない。そこで今回は、貧困を考えるうえで非常に興味深いと思ったメディアを紹介したい。最近、公開された映画「闇金ウシジマくん」である。

この作品は、もともとは漫画で連載されていたが、山田孝之主演でドラマ化された後に、今年映画化された。竹内力主演で爆発的人気を誇るVシネマ「ミナミの帝王」(こちらも漫画原作)と内容的には近く、端的に述べると、闇金業者と債務者が繰り広げるドタバタ劇である。ミナミの帝王の場合、多くは債務者が最終的に、主人公の竹内力演じる「銀ちゃん」に救われるというストーリー(例えば、悪徳業者に騙された債務者に代わり、法律を盾にしてその仇を取るなど)となっているのに対し、本作品では債務者が助けられる事が少なく、徹底的に債務者が追い詰められる筋書(例えば、債務者が身売りさせられたり等)となっている。ただし、債務者にかなり問題がある場合が多く(例えば、何も根拠がないにもかかわらず、「将来成功できる」と考え、借金をして遊びまわる等)、ひどい仕打ちを受けても仕方がないと思われる場面も少なくない。よって、読者が、世の中そんなに甘くはない事を感じさせられる内容となっている。また、債務者の特徴として、ミナミの帝王では、資金不足に陥った中小零細企業の方が主

であるが、本作品では、性格・心に何かしらの問題を抱えた人々が主体である。

本作品から私を感じたのは、貧困とは、世界銀行や国連開発計画（UNDP）などが定義したようなものだけではなく、心の在り方が「貧しい」ことも指すのではないかということである。本作品に出てくる債務者は、金を借りなければならぬ程、衣食住に困っている者はほぼ皆無で、一般的に生きていく上で必要不可欠でない欲望を満たすために借金をしている。つまり、自己の生存を最低限確保するためではないのである。たとえ他者と比べて物などが足りない状況であったとしても、命さえあれば有り難いことだということを考えられない心の在り様も「貧しい」といえるのではないだろうか。発展途上国では、現在でも通常の生活を営むことすら厳しい環境に置かれた人々は少なくない。しかし、憲法上、生存権が保障されている我が国は、余程の事が無い限り明日の生活が危ぶまれることはない。この環境の中で、心を健全に保つこと、すなわち、命があること、危険が少ないことだけでも幸せに感じる事ができる心を持つことは、社会保障がある程度整えられた国に生まれた私たちには大事なことであると思われる。厳しい顔の主人公「ウシジマ」を見ながらそういった思いにふける。